



【実施報告書】 海の祭ismプロジェクトin佐島

一般社団法人マツリズム

最終更新日：2020年4月14日



目次

- 報告書要点 (p.2)
- プログラム概要 (p.3)
- 集客について (p.4)
- 祭り当日のプログラムについて (p.5-10)
- PRについて (p.11-12)
- その他成果 (p.13-14)
- プログラム振り返り (p.15-16)
- 実施報告会について (p.17-18)

目的・目標に対する成果

<目的①>

海にまつわる物語を持つ祭りでの体験や、祭の担い手や移住者など地元の方々との交流を通じて、海への好奇心を高めてもらうこと



今回の参加者が多様性に富んで（学部や国籍等）おり、振り返り会ではそれぞれ独自の視点で佐島の海について発言していた
当プログラムを経て、自分の関心のある分野と海を結び付けて自発的に考えるようになった

<目的②>

地域の祭りの趣きを感じその大切さを体感するとともに、地域における本質的な価値を感じてもらい、それに留まらず、海に囲まれた離島地域でのつながりの重要性とコミュニティのあり方を考え、行動変容のきっかけとしてもらうこと



参加者が祭りの背景を学び、祭りの始まりから終わりまでを地域の人と共に作りあげ盛り上げた経験を通じて、その価値を感じてもらえた
また、海とともに暮らす島の人々との体験を通して、島でのつながりの重要性やコミュニティのあり方を改めて考え価値を見出し、第二の故郷のように佐島を再訪する参加者もいた

<目標>

参加人数10～12人



8人（内2名社会人）が参加
※台風の影響で1人が不参加（詳細参照：p.18）

プログラム概要

プログラムの流れ

2019/10/9

web説明会 兼
オリエンテーション



佐島での学習会
(佐島と祭りを学ぶ)



2019/10/12,13,14

祭り本番



祭りの後片付け
振り返り会

参加対象者

大学生

コンテンツ要素

➤ 学ぶ

- ① 祭りを通じて佐島と海のつながりについて学ぶ
- ② 祭りとの関連性（神輿が海に入る意味など）を学ぶ
- ③ 祭りを通じて海洋国日本における島同士の助け合い文化を学ぶ
- ④ 瀬戸内海が育む島の人々の暮らしを学ぶ

➤ 体験する

- ① 3日間を通して様々な場面で祭りの担い手と交流する
- ② 地元の人から佐島と海の関係・歴史の話を聞く
- ③ 佐島へ移住した人々の暮らしぶりを見て話を聞く
- ④ 地元の海の幸を島の人と一緒に実際に調理して食べる
- ⑤ 佐島を自由に散策し各々の視点で島と人に触れる



【振り返り】集客について



参加募集チラシ

大学生12名限定！

海の祭で『つながる』を体感する in 佐島
～Find your second home～

#助け合い

物々交換や嫁の世話、島内で助け合う人々。年に一度の秋祭りでは島を越えて、周辺の島々が助け合う！

祭

#島ぐらし

瀬戸内の離島に年々移住者が増えている。コンビニもハローワークもない島で、祭の『つながり』が日常を豊かに。

日程 2019年10月12日(土)、13日(日)、14日(月・祝)
※2泊3日が難しい方は一度ご相談ください。

場所 愛媛県上島町佐島(集合・解散については裏面参照)

申込みはコチラから <http://matsurism.uminohi.jp/recruit/>
<申込締切> 9月30日(月)

お問い合わせ info@matsurism.com
または、マツリズムFacebookメッセンジャー(m.me/matsurism.jp)にメッセージをください。

【主催】一般社団法人マツリズム 【後援】(公財)日本財団、上島町商工観光課、汐見の家

プログラムの背景

昭和35年頃、造船業の好影響で1200人を超える人々が住んでいた「佐島」。造船業の衰退に加え少子高齢化の影響もあり、現在では500人ほどの島人口に。そんな佐島ですが、佐島人の誇りとする祭り「八幡神社例大祭(佐島秋祭り)」があります。昔は神輿・だんじりの担ぎ手が溢れ、だんじりの乗り子は小中学生の男子のみ。しかし、人口減少とともにお祭りも縮小され、縦行列はなくなり女子も参加するように。今は隣の島々からの応援や帰省してくる出身者の力を借りて継続させている状態です。佐島の人々が大切に守ってきたお祭りを共に盛り上げ、地元の人や移住者との温かい交流を通じて、「つながり」の大切さとコミュニティの底知れない可能性を探ってみませんか。

プログラムの流れ

●事前オリエンテーション(10月上旬)
※事前オリエンテーションは参加学生の都合により、開催場所・日時を決定します。
(当日のライブ配信や後日の録画共有も実施予定です)

●祭り当日(10月12日・13日・14日)
※12月発表会にて報告会と動画上映会も実施予定(任意参加)

●私たちがサポートします！
マツリズム代表 大塚学、マツリズムスタッフ 伊藤ゆき、前年の祭参加者 藤田くん

プログラム概要

●集合・解散について

- <集合>▼首都圏出発の方
10月12日(土)10:00新尾道駅集合
※新尾道駅から車で移動します
- ▼四国出発の方
10月12日(土)11:30佐島港集合
- <解散>
10月14日(祝・月)14時ごろ現地解散

●対象・定員：大学生12名 ※一次締切：9月30日(月)

●参加費：3,000円 ※祭り当日お支払い
※参加費は保険代・現地交通費・宿泊費・食費を含みます。
※現地までの交通費は自己負担となります。

●ご自身でご準備いただくもの
・上下白の服(祭衣装の下に着用)と白足袋
・貴重品を入れる巾着袋など
※上下白の服は無料貸出可
※その他事前オリエンテーションにて説明

【参考：交通案内】
▼東京から 飛行機利用の場合 新幹線利用の場合 ▼四国から フライヤー利用の場合 車利用の場合
◀直線>21:00新尾道→宇50尾道発 ◀直線>6:00東京→9:54新尾道着 ◀直線>8:00高松発→10:59佐島着 ◀直線>10:50土佐港発→10:53佐島着
◀復路>19:40高松発→翌6:40新尾道着 ◀復路>15:50新尾道発→19:33東京着 ◀復路>16:16佐島港発→17:15高松着 ◀復路>14:40佐島港発→14:43土佐港着
※尾道新尾道駅は閉鎖(ノース) ※岡山駅へ乗り換えあり

<現地でのスケジュール> ※変更可能性あり

1日目	2日目	3日目
10:00-12:30 集合オリエンテーション	08:00-21:30 佐島秋祭り参加 八幡神社参拝 だんじり担ぎ	08:00-11:00 祭りの片付け
12:30-13:30 昼食	21:30以降 宿泊	11:00-12:00 昼食
13:30-18:00 佐島散策 19:00以降 祭り前夜懇話会参加 地元の方達との交流 宿泊		12:00-14:00 祭り盛り上げ
		14:00 解散

※宿泊場所は「汐見の家」を予定しております。
最新情報はコチラから！

プログラム実施体制

【主催】一般社団法人マツリズム(<http://www.matsurism.com/>)
「祭りのおかげで人と人をつなぐ」をモットーに、地域の思いの手を届ける団体です。但し手不足に備え地域の若者と外国人をつなぐ、祭文化の次世代への継承と地域活性化に挑戦します。

【協力】(公財)日本財団、上島町商工観光課、汐見の家
※本プログラムは日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として、次世代の若者と伝統を対峙し海の祭りを通じて海の大切さを伝える取り組みです。

参加者属性・参加ルート

No.	属性①	属性②	人数	参加ルート
1	早稲田大学	社会科学部	1名	前年度釜石参加者からの紹介
2	大正大学	地域創生学部	1名	マツリズム関係者 経由
3	武蔵野美術大学	造形学部	1名	SNS・メディア 経由
4	岩手大学	人文社会科学部	1名	SNS・メディア 経由
5	東北芸術工科大学	デザイン工学部	1名	SNS・メディア 経由
6	福山大学	人間文化学部	1名	マツリズム関係者 経由
7	社会人(台湾)	1名佐島でインターン経験あり	2名	マツリズム関係者 経由
8	早稲田大学	留学生	1名	マツリズム関係者 経由 ※台風のため欠席

祭り当日のプログラムについて

イベント概要

イベント名称	海の祭で『つながる』を体感する in 瀬戸内 佐島
開催日時	2019年10月12日（土）、13日（日）、14日（月）
開催場所	愛媛県越智郡上島町
参加対象者	大学生
参加者数	大学生8名、スタッフ5名
企画関係者	一般社団法人マツリズム 汐見の家、佐島祭典委員会、上島町商工観光課

実施内容

1日目	<ul style="list-style-type: none">・集合（スタッフ紹介）・昼食（自己紹介・海プロ説明・プログラム概要説明・移住者の話）・八幡神社お参り（宮司さんの話）・オリエンテーション（佐島と海の話・佐島の秋祭り事前学習）・自由散策（心に響く写真を1枚撮影）・夕食（参加者と地元の人で海の幸と一緒に料理）・懇親会で祭りの担い手と交流・宵宮祭（だんじり担ぎの練習）
2日目	<ul style="list-style-type: none">・佐島の秋祭り 市内渡御：だんじり担ぎ、神輿海中禊ぎ・懇親会で祭りの担い手と交流
3日目	<ul style="list-style-type: none">・後片付け（お世話になった地元の方へ参加者より御礼の挨拶）・昼食・振り返り会

祭り当日のプログラムについて

配布物

しおり、海プロ説明リーフレットを配布しました。

<しおり>

海の祭で『つながる』を体感する
in 瀬戸内 佐島

スケジュール

※祭りの進行具合によって、時間が押したり、一部スケジュールを変更する可能性があります。

【1日目】 佐島を学ぶ & 夜殿祭

時間	スケジュール
11:30	佐島集合 → book café okappaにて昼食
12:30	出発 → 佐島八幡神社お参り
13:00	汐見の家にてオリエンテーション
15:00	佐島散歩
17:00	汐見の家にてみんなで夕食作り
18:00	夕食
19:15	汐見の家集合→開発センターで懇親会
20:30	佐島八幡神社にて夜殿祭
22:00	終了 → 汐見の家にて解散

【3日目】 盛り盛り

時間	スケジュール
07:00	朝食
07:45	汐見の家集合 → 出発
08:00	佐島八幡神社にて祭りの片付け
10:00	買い出し（土産購入）→昼食
12:00	汐見の家にて盛り盛り
13:30	終了 → 解散

【2日目】 佐島の秋祭り 本祭

時間	スケジュール
06:00	朝食
06:45	汐見の家集合 → 出発
08:00	佐島八幡神社にて祭り開始！だんじりと神輿を担ぎます！神輿を担ぐ人は神輿と一緒に海に入ります
12:00	開発センターにて昼食 → 汐見の家で休憩
16:45	汐見の家集合 → 出発
17:00	佐島八幡神社にて祭り再開！佐島の夜独特の恋廻りの中神輿とだんじりを担ぎます！神社の急な石段を担ぎ上げるのがクライマックス！
21:30	終了 → 汐見の家集合 → 開発センターで懇親会
23:00	懇親会終了 → 汐見の家にて解散

おねがい

- 2日目は終日お祭りです。ハードな一日になります。前日は遅くとも0時には就寝し、翌日に備えましょう！
- お祭り参加中はこまめに水分補給をしましょう！
- 少しでも体調が悪かったり、怪我をしたり、何か困り事心配事がある時にはすぐにスタッフへお知らせください。プログラムを楽しむためにも無理は禁物！
- トイレなど、その場を離れる時には必ず一言スタッフまでお声がけください。
- 未成年の方は絶対に飲酒しないようお願いします。
- 佐島のこの日この時にしか体験できない世界がここにはあります。ぜひ佐島の万端とたくさんお話しをして、五感全てで佐島を感じて、めいっはい楽しんでください！！

MAP & ミッション

心に響いた佐島の写真を！同日夕食までに撮れ

佐島の3つの謎を解き明かせ

各：佐島八幡神社に砂浜の上に建っている謎の祠；周辺の間の中佐島の神輿が海に入る謎；人、島、海が繋がりがけ合う謎

参加メンバー

福山のお祭りに参加したことあるよー

台湾から参加します！

岐阜の古川祭りに参加したよ！

かずちゃん

キー

さきちゃん

地元のためにきたい！

NY出身だよ

山形花笠まつり毎年参加！

ふじだい

ピクター

ぜん

後島出身！阿波踊り行ったよ！

台湾で阿波踊り参加できたー

みずき

ゆうき

プログラム運営メンバー

一般社団法人マツリズム 代表理事 大原 学

祭りの楽しさを伝え地域をつくる「マツリテーター」として、祭りの本質を体験してもらおうプログラムを5年間のべ400名以上に提供している。

一般社団法人マツリズム 当日スタッフ

伊藤 ゆき

高田 翔太郎

一般社団法人マツリズム 当日スタッフ

西貝 瑠子

一般社団法人マツリズム 当日スタッフ

宮本 晴久

一般社団法人マツリズム 「祭りの方で元気を！」をモットーに、地域の祭りの担い手を応援する団体です。若い力不足に悩む地域の祭りや都市部の若者や外国人をつなげ、祭り文化の次世代への継承と地域活性化に貢献します。

※本プログラムは日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として、次世代の子も連帯を対象に海の祭りを通して海の大切さを伝える取り組みです。

緊急連絡先

大原：080-6550-7084

伊藤：090-4529-7107

※当日変更内容

・台風19号の影響でプログラム当日の移動が困難になるため前日中に福山へ移動してもらい、当日の集合同場所を新尾道駅ではなく福山駅へ変更した

祭り当日のプログラムについて

当日の様子

<1日目>

地元の方から佐島と祭を学ぶ



海の幸を皆で調理、島暮らしを体験



<2日目>

特別に神輿を担がせてもらい海で禊ぎ



集合写真（佐島港にて）



<3日目>

地元の方と祭の片付け、御礼の挨拶



港で昼食を食べながら振り返り会



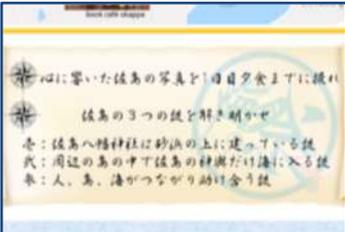
祭り当日のプログラムについて

学びを深める取り組みについて

今回のプログラムでは、1日目のオリエンテーションにて上島町の教育委員会の方・佐島秋祭りの祭典委員会の方・佐島へ移住して生活している方から佐島（海との関係や歴史）と祭りについて学ぶインプットの時間を十分に設けた。

全行程を通して心に響く写真の撮影や佐島の謎（海、人、島のつながり）を解くミッションを与え、実際に自分達の足で動き自発的に地元の人達とコミュニケーションをとる機会を創出した。

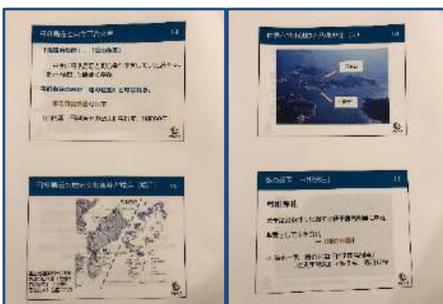
最終日には、事前学習と自らの行動を通して収集した情報を元に、自分自身で得た気づきと学びを全体に共有してもらった。今回の参加者は大学の学部や国籍など多様性に富んでおり、それぞれ独自の視点での個性的なアウトプットとなり、体験だけでなく他の参加者から刺激を受けた人が多かった。

認識の確認①	認識の確認と共有②	認識の確認と共有③
<p>1日目 オリエンテーション 佐島と祭りの学習</p> 	<p>全行程中 ミッションを遂行 地元の人から話を聞く</p> 	<p>3日目 佐島港と汐見の家にて 振り返り会</p> 

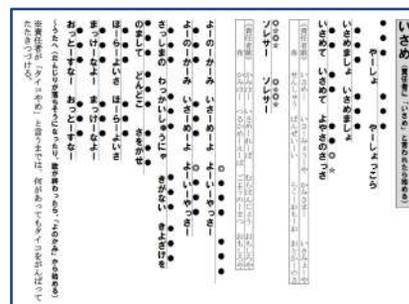
➤ オリエンテーションで地元の方が作成してくれた一部資料



佐島秋祭り



佐島と海、塩田の歴史



祭りの唄

祭り当日のプログラムについて

学びを深める取り組みについて

<振り返り会：全プログラム終了後 佐島港と汐見の家にて>

1. 3日間の行程の振り返り
2. ミッションの回答（佐島における人・海・島のつながりについて）
3. プログラムを通して得た気づき・学びの共有
4. チェックアウト

振り返り会コメント

佐島の人々のつながり

- ・道を歩いて知らない人とすれ違う時も自然に挨拶して挨拶を返す、人同士のつながりが良かった
- ・散歩中に初めて出会った島の人に思い切って声をかけてみたら、色々話してくれて山を案内してくれた。佐島の人は優しい
- ・宵宮祭の予行練習の時に、子供も大人も真剣な姿をみて誇りを持ってやっているんだと鳥肌がたった
- ・普段「外国人」というレッテルが貼られている状態だけど、だんじりを一緒に担ぐ時にはそれが外れて一体になる。佐島の人達は多様性を受容してくれる、佐島の祭りはとても温かい
- ・懇親会であまり話さなかった担い手さんが翌日祭りで会った時笑顔で手を上げてくれ、それが嬉しかった
- ・お祭りでだんじりを担いで町を練り歩きながら手を振ると、見ている子供達やおばあちゃんが手を振り返してくれて嬉しかった

佐島と海（自然）のつながり

- ・自然と人の繋がりを感ずることができた
- ・佐島の山の麓でとても小さな石地蔵を発見した時自分の地元では台風で飛ばされてしまうと思い、地元と佐島を比較する事ができて、ここは災害の少ない土地なんだなと思った。そんな穏やかな土地だから佐島の人達はとても穏やかで優しいのかもしれない
- ・佐島の祭りだけ神輿が海に入るのは、20～30年前にやるようになったから。馴染みのある海に入って祭りのパフォーマンスを高めるといった目的でもあった
- ・1日目の自由散歩で佐島の奥の方まで歩き、海の近くにすぐ農園（柑橘系）があり、珍しく印象的だった
- ・神輿で海に入るというのは初めての経験で、とても神聖な気持ちがあった
- ・八幡神社の境内が砂浜のようになっているのは、移転前の神社の場所が海に近い場所にあったからなのではないか
- ・散歩中、八木の巣退治に出かけるおじさん集団に出会った。海の近くでふざけ合っていて、これから危険な事をするようには見えなかった。こういう穏やかな海の傍で育ったからいい関係が作れるのかもしれない
- ・散歩中、山に登ったら、山の中に人が通りやすいよう獣道が作ってあったり、頂上には明らかにDIYのベンチとテーブルがあった。他の地域では自然の管理は行政の仕事となりやすいのに、佐島の人達は佐島の自然を放置せず自分達で管理して日常を豊かにし、佐島と人生を豊かにしている
- ・海を見るとすごく穏やかな気持ちになる。佐島の人々に触れて、穏やかな瀬戸内海にある佐島だからこそ、地元の仲間同士と穏やかな関係性がつくれるのだと思った

祭り当日のプログラムについて

振り返り会コメント

島同士のつながり

- ・祭りの時の島同士の助け合いのつながりがすごかった
- ・橋が繋がってなくて普段顔を合わせる機会のない島の人同士でも、祭りを通じてつながることができる。とてもいい機会だと思った
- ・祭り中、佐島の祭りの法被を着ている人しか祭りの唱を唄っていなかった。それは、外部の人は佐島の祭りを尊敬し、佐島の人には自分達の祭りだという誇りを持っているということなのかと思った

学び/気づき

- ・自分の地元の祭りをどうやって残していくか、そのヒントが得られた気がする。やはり外の者が入っても祭りはその地域の人のもので、サポートに徹することが大事だと思った
- ・ここで同世代の仲間に出会って刺激を受けて、アルバイトをやめることを決めた。お金が貯まっても経験はたまらないから、もっと外に出て活動する
- ・佐島の秋祭りはとても楽しかったが、なぜ自分は初めて来た島の祭りに参加して地元の祭りに参加していないのか、違和感を感じた。来年は絶対地元の祭りに出る
- ・お祭り、とても疲れたけれどもしばらく経ったらまた来たい。そう思わせるところがお祭りの魅力だと思った
- ・日常の中に非日常のお祭りという「間」を作ることで、人や地域のまとまりをつくるのだらうと思った
- ・他のお祭りに行ったことあるのと聞かれて「ない」と答えてそう思っていたが実は色々行っていることに気づいた
- ・若い人たちが来ただけでとても喜ばれる。喜ばれるってとても大事だと実感した
- ・地元の同年代の人もいたけれど、すごく真剣に全ての瞬間全力でやっていて、彼らみたいな振る舞いは自分にはできないと思った
- ・いま（振り返り中）は、想いが強すぎで言葉にならずもどかしい気持ちだが、こんな貴重な経験ができて私の三年間（以前佐島でヘルパーをしていた）が完結した気がした。
- ・僕はだんじりを一生懸命担いだ。それは地域のため、神様のため、そして彼女（同行した台湾人の女性）のために。LOVE & PEACEの気持ちであふれている。

プログラム体験後の行動変容

- 佐島という瀬戸内海の離島の魅力を感じた参加者が多く、体験プログラム終了後も滞在した参加者と1か月のうちに再訪した参加者がいた
- 東京都内で開催される離島のイベントに、佐島の人に会うため来訪した参加者がいた
- 当プログラムに参加した大学生が自発的にマツリズムを手伝ってくれるようになり、実施報告会では当日スタッフとして貢献してくれた
- 地元の方の温かさに触れ、地元の方がくれた太鼓のバチを使って卒業制作を行う予定の参加者がいた
- 自分自身が体験することで学びが深くなると気づき、アルバイトを辞めて様々な体験をしようと思った参加者や、自分自身の足で学びを得るため大学の休学を迷う参加者がいた

【成果】メディア掲載

No.	メディア名	媒体手段	放送日・掲載日
1	愛媛新聞 (プログラム告知)	新聞	2019年10月2日
2	愛媛新聞	新聞	2019年10月20日
3	南海放送	テレビ	2019年10月25日
4	NHKworld	インターネット、NHKBS1	2020年1月23日

➤ 愛媛新聞



➤ 南海放送



<https://www.youtube.com/watch?v=xqiEpyjun8g>

➤ NHKworld「RISING」



<https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/en/ondemand/video/2042093/>

【成果】オリジナルPR動画の作成



<https://www.youtube.com/watch?v=8KhnSn9OrMs&t=4s> 【3分動画】



<https://www.youtube.com/watch?v=WyGRHLz6mJg> 【10分動画】

<プレスリリース日> 2019年10月3日

ご取材のお願い

2019年10月吉日




報道関係者各位

瀬戸内の離島で行われる祭りに東京等の大学生や外国人が参加！
「佐島秋祭り」体験プログラムを実施
 2019年10月12日(土)～14日(月・祝) 於・上島町佐島
 ※祭りの本番は「13日」となります。

拝啓、時下ますますご清寧のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜わり、心より厚く御礼申し上げます。

一般社団法人マツリズムは、「海の祭 Ism プロジェクト」と題して、昨年より大学生を対象に、魅力的な海の祭りに参加体験するプログラムを実施しています。地域活性化や離島の暮らしに興味のある学生を対象に、「海の祭り」で「つながる」を体験する In 夜泊 を実施します。期間は10月12日(土)～14日(月・祝)。このイベントは、次世代へ海を引き継ぐために、海を介して人と人がつながる「日本財団「海と日本プロジェクト」」の一環です。

「佐島」は現在500人ほどが住む瀬戸内に浮かぶ島。その佐島で行われる伝統的な島の祭りが「八幡神社祭(佐島秋祭り)」です。この祭りには海に囲まれた離島独特の「島ネットワーク」による助け合いの文化により、神楽やだんじりの担ぎ手が集まります。マツリズムでは、佐島の人々が大切に守ってきたお祭りを共に盛り上げ、地元の人との温かな交流を通じて、「つながり」の大切さとコミュニティの可能性を語るべく、今回の取り組みを実施しました。瀬戸内の島々への移住者も増えている今、非都市など他地域の大学生や外国人の方達(合計十数人)がどのような体験をするのか、どのような面持ちになるのか、ぜひ取材をご検討いただけますと幸いです。

添付の返信フォーマットに必要事項をご記入の上、**2019年10月11日(金)までにご返信ください**ますようお願い申し上げます。

イベント名	海の祭りで「つながる」を体験する in 佐島
開催日(期間)	2019年10月12日(土)～14日(月・祝)
開催場所	愛媛県上島町佐島
交通手段	次ページに参照
内容	12日(土) オリエンテーション後佐島を散策 佐島秋祭り(宵宮)見学。祭り前後の懇話会で地元の方達と大学生が交流します 13日(日) 佐島秋祭り(本番)参加。八幡神社を参拝し、だんじりを担ぎます 14日(月・祝) 祭りの後片付けのあと、振り返り会を行います

敬白

<お問い合わせ先>
 一般社団法人 マツリズム 広報代理: 大竹
 電話: 080-1381-8713 メールアドレス: nanako.otake@uminohi.jp

マツリズムは、日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として、次世代へ海を引き継ぐため、海を介して人と人とがつながることを目的として、本事業を実施しています。

お手数ではございますが、本返信フォーマットに必要事項をご記入の上、**10月11日(金)中まで**にご返信くださいますよう、お願い申し上げます。

「佐島秋祭り」体験プログラム
返信フォーマット

開催日時: 2019年10月12～14日(土～月・祝)
開催場所: 愛媛県上島町佐島
当日の緊急連絡先: 080-1381-8713 (担当: 大竹)

↓

FAX 返信先: 03-4333-7610
メール返信先: pr@green-media.org

【ご記入必要事項】

※ご取材を希望される日程にチェックを入れてください。

12日(土)
 13日(日)
 14日(月・祝)

貴社名: _____

番組/媒体名: _____

部署名: _____

御芳名/参加人数: _____ 様(他 名)

電話番号: _____

メールアドレス: _____

カメラ持ち込み: 有り (スチール / ムービー) ・ 無し

<お問い合わせ先>
 一般社団法人 マツリズム 広報代理: 大竹
 電話: 080-1381-8713 メールアドレス: nanako.otake@uminohi.jp

マツリズムは、日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として、次世代へ海を引き継ぐため、海を介して人と人とがつながることを目的として、本事業を実施しています。

振り返り

- NHKworldによるマツリズム代表密着取材について、事前の打ち合わせで佐島のプロジェクトを強く提案した結果、取り上げていただくことができた。全世界160カ国の配信なので非常に大きな成果を得ることができた。
- 関係者の紹介で事前に足を運び事前に挨拶させてもらった愛媛新聞に取材してもらい大きく取り上げていただくことができた。メディアに取り上げてもらうために、こうした事前の根回しとこまめなコミュニケーションは必要と感じた。

【成果】上島町の地域づくり資料への掲載・イベントでの発信

2019年11月12日に上島町弓削地域交流センターにて開催された「中国・四国圏の持続可能な地域づくりシンポジウム」にて、当プログラムで大変お世話になった佐島の秋祭りの祭典委員長が、上島町役場よりパネリストとして登壇。その際に使用した資料の中で、当プログラムが取り上げられた。

➤ 上島町の地域づくりのシナリオ

※マツリズムについて書かれたページのみ抜粋



【成果】海の祭ismプログラム地域向け上映会（延期）

- 当プログラム終了後、佐島の秋祭り祭典委員会から島の高校生に祭りに参加してもらいたい（現在参加している高校生はほとんどおらず、海の祭大会議のワークショップでも大きな課題の一つとして挙げられた）旨相談を受け、行政とタッグを組み地域住民へ向けて当プログラムの動画を活用した上映会を企画、準備を進めていた
- 映像として自分達の島の祭りの魅力を感じてもらうとともに、当プログラムへ参加した大学生より佐島の秋祭りの体験を言語化してもらい、高校生と年齢の近い地域外の若者から佐島と祭りの魅力を伝え、地元の若者が祭りに参加する機会創出を狙った

※ 2020年2月22日に実施予定だったが、新型コロナウイルスの影響により開催直前に延期が決定

➤ 佐島祭典委員会が作成したチラシ

「令和元年佐島秋祭り」映像の上映会のご案内

昨年（令和元年）の佐島秋祭りにおいて、全国の祭りを応援する「マツリズム（代表：大原学）」が全国の大学生に参加を呼びかけ、応援に駆けつけてくださいました。

当日、テレビや新聞など、様々なメディアに取材に来ていただきましたが、マツリズムの佐島秋祭りに参加した様子を密着取材した「NHK WORLD」および「南海放送」の映像の上映会を次のとおり開催します。

ご自宅でも参加できますので、皆様、是非お集まりください！

◆日時 令和2年2月22日（土）
13:30～

◆会場 弓削開発総合センター（和室）

◆プログラム

13:30 開会（大原代表あいさつ）
13:40 上映会 ①NHK WORLD「RISING」28分
②南海放送制作番組 12分
14:30 フリートークキング ～ 15:00 閉会

※上映会当日は、マツリズム及び佐島秋祭りに参加した大学生も来島される予定です。

映像は次のアドレスからもご覧になれます。

『NHK WORLD「RISING」』
<https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/en/ondemand/video/2042093/>

『南海放送の映像』
<https://youtu.be/WyGRHLz6mJg>

佐島祭典

【振り返り】良かったこと

- 直前まで台風への対応がバタバタしていたが一番良い形にできた
- 学生たちの協力が得られて無事に催行できたが、それを促した事前オリエンテーションの存在が大きかった
- 学生たちの負担を少なくするために集合場所を変更したこと（新尾道→福山）
- 散歩の時間を自由行動にしたため、それぞれ参加者自身の考えのもとに動くことができた
- 1日目夕飯の支度を参加者が主体となり行うことで、自発的にコミュニケーションをとり各々の役割を見つけ全うするなど、祭り前に仲間同士のチームワーク力を高めることができた
- 円陣のデモンストレーションを行い実際に全員で実行、マツリズムらしく団結力を高めることができた
- 事前交渉の甲斐があり、本来は休み予定の昼食場所を確保でき、移住者の貴重な話を聞くことができた
- 祭典委員の方のご厚意で、オリエンテーションで事前に祭りの唄の練習ができた
- スタッフの役割を明確に決めていたため、当日スタッフの動き出しがスムーズだった
- 未成年に対して飲酒させないよう徹底したため、地元の方も協力してくれた
- 祭りの担い手が参加者たちにすごくオープンに接してくれ、積極的に関わってくれた
- 地元の方のご厚意で、特別に神輿を担いで海に入れてもらった
- 密着取材なども入り気を遣う事が多い中で、当日スタッフの明るさが参加者達を盛り上げた
- 片付け後のセレモニー（参加者と地元の方の感謝会）ができてよかった
- 参加者の感想を地域側に対してすぐフィードバックができるなど、事後対応が迅速にできた
- 宮司のご子息が「祭りの未来が見えた」と言っていた

【振り返り】改善点/今後に向けて

- 直前に作業をやることが多く、寝不足で体調不良に。もっと計画的に動き、互いに声を掛け合うべきだった
- 前日入りして現場対応しているスタッフに代わり、学生たちからのメール返信などの事務作業をリモートで対応できる人がいると良かった
- 台風の影響で集合場所の変更や当日スタッフの遅れなどイレギュラーが発生し、スタッフの負担が増えた
- 別ルートで到着している参加者へ、連絡を入れることができなかった
- 1日目ランチの際の段取りが悪く、結果的にまとまりがなくなってしまった
- オリエンテーションのゲストの人選を誤ってしまった（事前をお願いしていた内容がうまく伝わっておらず海についての濃い話を聞けなかった、他の人と話が被った）
- オリエンテーションの時間管理をもっと厳しくすべきだった
- 調理中に参加者が包丁を使っているのにスタッフがその場におらず地元の方に大きな負担を掛けてしまった
- メディアの人たちのご飯や宿泊について事前に全て把握しておくべきだった
- 13日の懇親会后、参加者が会場に残ったまま宿に戻ってきてしまった
- 担い手の方たちと合流するのに遅刻が多かった
- 参加者のコントロールが難しかった（精神的に不安定だったり意図を理解してもらえなかったり）
- 神社訪問時に宮司と段取りがしっかりできてなく迷惑をかけた
- 1日目夕食の準備開始時間が遅く、夕食時に写真共有もできず急いで食べることとなった
- 地元の人や参加者のメディア負担が大きかった。過剰なインタビュー対応や事前通知を徹底すべきだった
- 適時にTwitter、Instagramの発信をもっとするべきだった
- 振り返りの段取りを事前に決めておくべきだった
- 3つのミッションを活用し、祭りの担い手へ参加者がインタビューする体験を作れたらよかった
- もう少し唄の練習や祭りを楽しむ準備ができれば良かった（唄の練習時に動画を準備するなど）
- 参加者の体力など状況に応じてプログラムを柔軟に変更できる余地を残しておいた方が良かった（スケジュールを詰め込みすぎた）

イベント概要

タイトル	海の祭大会議2019
目的・ねらい	日本全国の「海にまつわる祭の担い手」が集結して交流する、日本で初めての試み。各地の祭の魅力を知り、それぞれの祭の発展や未来をつくっていくための意見交換を行い、これまで知らなかった「海の祭」の魅力と可能性を探り発信していく場
日程	2019年12月7日
開催場所	日本財団ビル8F（東京都港区赤坂1-2-2）
参加人数	49名（海の祭の担い手・大学生・社会人。佐島の秋祭りの担い手2名、当プログラム参加者3名を含む）
報告方法	イベント内今年度のプロジェクト、体験プログラム実施報告にて、マツリズム代表より本プログラムの内容・成果についてイベント参加者へ向けて発表。佐島の秋祭りにて2019年に祭典委員長を務めた方とそのご子息の2名、参加大学生1名にも登壇してもらい、感想に加えて地域や自分自身の意識にどのような変化があったかを発表してもらった。
告知方法	「海の祭ism」プロジェクトで今年関わった祭の担い手と体験プログラム参加者へ直接連絡（メール、SNS等）

実施内容

- 16:00 受付開始
- 16:30 開会・オープニング
 - 第1部 ゲストトーク
 - 第2部 海の祭ismプロジェクト報告
 - ・海の祭体験プログラム
 - ・祭りの実態調査結果
 - ・海の祭訪問／取材
 - 第3部 祭の課題解決ワークショップ
- 19:00 懇親会
- 20:00 終了



実施報告会について

当日の様子（海の祭大会議体験プログラム実施報告）

2019年度プロジェクト報告



体験プログラム実施報告



佐島で大きな意識変容のあった学生



佐島の秋祭り祭典委員長親子が登壇



佐島参加学生がスタッフとして貢献



WSで発言する佐島の秋祭り参加者

